

ふりがな 氏名	うえのじゅんや 上野純也	職名	講師	就任年月	2024年(令和6年)9月
------------	-----------------	----	----	------	---------------

【学歴】	2013年3月 明治大学法学部法律学科 卒業 2015年3月 明治大学大学院法学研究科博士前期課程公法学専攻 修了 2020年3月 明治大学大学院法学研究科博士後期課程公法学専攻 単位取得退学 2023年3月 明治大学大学院法学研究科博士後期課程公法学専攻 修了
【取得学位】	修士(法学) 2015年3月取得 博士(法学) 2023年3月取得
【職歴】	2018年4月 明治大学大学院法学研究科 RA(~2019年3月迄) 2019年4月 明治大学法学部 助手(~2020年3月迄) 2020年4月 城西大学現代政策学部 非常勤講師(~2024年8月迄) 2022年4月 尚美学園大学総合政策学部 非常勤講師(~2025年3月迄)
【専門分野】	刑法学 身体に対する罪
【研究課題】	刑法における暴行の概念について
【担当科目】	刑法総論(後期) 刑法総論B 刑事訴訟法I 刑事政策B
【学会・社会活動】	日本刑法学会 日本政治法律学会

【主な研究業績】

区分 (単・共別)	著書・論文名等	発行所・掲載誌・発表学会等	発行・発表 年 月
学術論文 (単)	暴行の客体と暴行概念の相対性 －騒乱罪の判例・立法史をてがかりに－	城西現代政策研究 17 巻 1 号 1 頁	2023 年 12 月
学術論文 (単)	刑法における暴行概念の研究 －暴行の中心的要素と作用の対象について－	明治大学・博士学位論文・ 甲号第 1077 号	2023 年 5 月
学術論文 (単)	教師による身体的懲戒行為と暴行罪の構成要件解釈 －刑法解釈的アプローチを中心として－	日本政治法律学会(日本政治 法律学会)3 号 339 頁	2022 年 7 月
学術論文 (単)	暴行罪における暴行概念と心理的作用の評価 (下)－ドイツ刑法における暴行概念をてがかりに－	明治大学大学院法学研究論 集 53 号 1 頁	2020 年 9 月
学術論文 (単)	暴行罪における暴行概念と心理的作用の評価 (上)－ドイツ刑法における暴行概念をてがかりに－	明治大学大学院法学研究論 集 51 号 1 頁	2019 年 9 月
学術論文 (単)	傷害概念と人の身体の保護 －スイス刑法との比較から－	明治大学大学院法学研究論 集 50 号 23 頁	2018 年 2 月
翻訳 (単)	3. ロタール・クーレン「いわゆる腐敗強要について」	法律論叢(明治大学)96 巻 1 号 261 頁	2023 年 7 月
翻訳 (単)	ドイツにおける医薬品・医療機器に関する法規制システムの制度概要	尚学社・明治大学 ELM、明 治大学比較法研究所編『新 たな薬事制度を求めて－ 日独法制度の比較から－』	2020 年 3 月
学会報告 (単)	少年法改正過程の検討－少年法等の一部を改正する法律案(令和 3 年)を素材に－	日本政治法律学会第 7 回研 究大会〔現代法律学会〕(オ ンライン開催)	2021 年 5 月
学会報告 (単)	教師による懲戒権の行使と身体に対する罪－ 刑法解釈論的アプローチを中心として－	日本政治法律学会第 5 回研 究大会〔現代法律学会〕(オ ンライン開催)	2020 年 5 月
判例研究 (単)	ドイツ刑法判例研究(6)－執行担当官への実力 による攻撃と公務に対する犯罪(OLG Karlsruhe, Bescchl. v. 02. 03. 2023 - 1 Ors 35 Ss 57/23)－	法律論叢(明治大学)97 巻 1 号 329 頁	2024 年 7 月
判例研究 (単)	気候保護活動家の道路封鎖の可罰性(LG Berlin, Urt. V. 18. 01. 2023 - 518 Ns 31/22)「ド イツの刑事判例の動向(2)」	現代法学(東京経済大学)46 号 161 頁	2024 年 2 月
判例研究 (単)	ドイツ刑法判例研究(1)「コンテナ漁り」行為 と刑法による財産の保護	法律論叢(明治大学)95 巻 1 号 327 頁	2022 年 7 月